ニュクスでさとりでタナトスでタルタロスで

ねねね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ニュクスでさとりでタナトスでタルタロスで

【Ｎコード】
Ｎ３２３０ＢＡ

【作者名】
ねねね

【あらすじ】
主人公がニュクス・アバターで
さとりさんで
タナトスで
タルタロスに住んでる物語

※最初からツッコミ満載ですがお気になさらずに。
※よくある主人公チート。及びハーレム？
※余談ですが作者の趣味です。趣味満載です。

ぷろろーぐ？（前書き）

・・・なんでこんなもの作ったんだろう。
とりあえずどうぞ。

ぷろろーぐ?

夢を見ていた。
巷で呼ばれてる明晰夢とかいうものだろうか、ここが夢の中だということがはっきりとわかる。
夢の舞台は親が離婚する何年か前の記憶の中で、楽しかった思い出の一つ。
まだ小学校に上がったばっかりだった俺には妹が一人いて、その妹と公園で遊んでいる夢

「お兄ちゃん見てみて！」

夢の中の妹が俺を呼んでいる。公園の外をぼーっと見ていた俺は妹の方へ振り返って見ると、なぜか仁王立ちで妹が立っていて、その隣に砂でつくったお城が出来ている。

「うぉ！？」

思わず叫び声を上げてしまった。なぜかというとお城が物凄い精巧だからだった。とゆうか妹まだ幼稚園生だよな？というかこんな記憶だったっけ・・・？
・・・夢の中だから仕方ないか。とりあえず褒めてみると妹は「えへへ・・・」と頬を少し染めながら照れている。我ながら可愛い妹だと思う。

「お兄ちゃん」

「ん？なんだ？」

また呼ばれたのでとりあえず返事をしてみる。心無しか顔が悲しそうだ。

「ばいばいお兄ちゃん」

そういってきた。ばいばいって何が・・・っ！？

「ぐぁぁああ！」

俺は妹の突然の行動に反応できなかった。

妹は俺の腹に、何処から出したのか分からない包丁を突き刺していた・・・

「って妹何やってんのぉぉぉぉぉぉぉぉ！」

やばい、なにあの夢怖い。ものすごく怖い。てかなぜ夢で妹に唐突に刺されなければならない！？

とゆうかここどこ！？目が覚めて何も無い真っ白な空間ってどうゆうことさ！？

『お、目が覚めたか。』

声がしたので思わず誰かいるのかと思い、白い空間を見渡すが誰もいない

「あー、言っておくが私の姿は見えないぞ？というか見せられない」

いやいやそんな分けないでしょうに、そんな事言ったらどうやってこんな所で声を・・・

『あー・・・、まぁ、そうゆう設定だと思ってくれ。とりあえず説明が面倒だ。』

そーですかー、そーなのですかー。って設定って言ったよね今！？設定ってどゆことなのねぇ！？

『細かい事は気にするな！』

・・・分かりました。

『所で、さっきから私が君の心を読んでいるのにツッコミはないのかな？』

さっきのやり取りの途中で気づきましたが正直喋らないの楽だなぁと思って。

『・・・そうか。』

ところでここは何処であります？

『ここか？　・・・んー、《転生の間》って場所だよ？』

あ、はい。分かりました。つまり俺は転生されるんですね？　じゃあさっさと転生してくださいよノミでも蚊でもいいから。ほらほら早く！

『いやいやそれじゃ面白くな・・・いや君そんなのに転生してもいいのかい！？』

良いです。人間じゃなくてもいいです。大丈夫ですから。とゆうか面白くないってあれですか？
まさか転生させて俺に何かやらせようってんじゃないでしょうね？

『いや、そんな事はないよ。ただ、転生させるのにちょっと決まり事を付けようと思ってね。』

決まり事ですか、さっさと言ってくださいな

『・・・君っていう人は。とりあえず一回しか言わないから言うよ？

1. 何に転生するかを決める。
2. 転生先の世界を決める。とりあえずどんな世界でも良い。
3. 願い事を言え（無理な願いもある）。１０個くらいなら難なく可能。
4. それ以外の特典として、さまざまな世界での人物が普段技などを出すのに使うもの（魔力や気）などをチート級にする。

いっておくけど異論は認めないからね？　おーけぃ？』

・・・あんた、何がやりたいんですか？

『何がって？　別に不満も何もないでしょ？　こんな破格の条件。まぁ、強いて言えば私が楽しみたいだけ。ときたまこうやって遊んでるからね。勿論、他の転生者もいるから、上手く共闘してね。無

理だろうけど。』

そうですかー・・・、・・・とりあえず、テンプレとしてまず、親、親類、友人その他諸々から俺関係の記おk

『却下。』

ホワッツ！？　なぜに！？

『面白くない。自分の力のために使いなさい。』

へいへい・・・、じゃあちょっとまっててくださいねー。たぶん1日くらいかかると思う。

『わかったよ。でも結構時間かかるね？』

いや、記憶の中にある面白い能力とか思い出すんですよ。
正直言って声の主さん、普通にチートじゃ面白くないでしょ？

『・・・よくわかったね。そうだよ。最近はそういうのばっかりだから。というかなんでわかったの？』

んー、ネットじゃあそういう小説が流行っていたから実際もそうなのかなーと。

『へぇ～・・・、そんなものがあるんだ。今度探してみようかな。』

うん、是非お勧めマジお勧め。とゆうか知らなかったのに驚き。
まぁ、とりあえず決めるんで静かにしてねー

『はいはーい。』

・・・

・・・

少年選択中・・・

・・・

・・・

決まったよ！

『遅いね。2日もかかってるじゃないか。』

いやぁね。これがなかなか思い出せなくてねぇ・・・。とりあえず言うよ？　とゆうか思うよ？

『ばっちこーい。』

まず1。

とりあえず最近のうp主の趣味と言う事でニュクス・アバターになれないかな？

ニュクスっていう字はついてるけど、ほんまもんのニュクスとは関係なしで。あんなの呼びたくないし。

『おぉ、メタいメタい。しかしこれは・・・面白いとこいくね。今までの転生者は金髪銀髪オッドアイとかが多かったからね。性別転換も少なかったし。そもそもアニメの主人公とかになること自体、有名どころだし人間の体だったし』

それじゃあつまらないでしょ？幾らオリ主無双って言っても、それじゃあつまらないし、どんな無双がいいかなぁと思ったらこれが思い浮かんできたから。後いつでもその格好ってわけじゃあないよ？ちゃんと普段は人間の体ｎ

『では私の一存で、容姿は東方ｐｒｏｊｅｃｔの古明地さとりにタナトスの衣装、タナトスの顔は仮面として顔に飾りつけ。勿論、鎖とそれに繋がってる棺桶８つもつけるけど、衣装も兜も全部取り外しは不可♪　特例としてお風呂に入らなくても汗の臭いとか体の汚れは全部自分の力で消せる事にしておくね♪』

・・・へ？

『おーけぃおーけぃ、それで決まりィ！』

ちょ、待って、俺の意見ｈ

『却下。』

だから『却下』俺の『却下』意見を『却下』聞けって『却下』

・・・はい、分かりました。・・・別に良いけどさ、性別転換はするつもりだったから。ただし両性具有。

というかそれって趣味なの？

『趣味。あ、それと棺桶とかはある程度の実力のある人にしか見れないようにしておくから。まぁ、みせようと思えば誰にでも見せることも出来るけど。それと両性具有は可で。』

・・・突っ込まんぞ俺はもう。とりあえず2だけど、これはランダムにいろんな世界を巡るってのはできないかな？

『ん？大丈夫だよ？とゆうかそんな子あまりいないからむしろばっちこーい。』

了解。んで、問題の3だね3

『だねー。』

とりあえずニュクス・アバターの技は使えるわけ？

『使える。アルカナによる技の変化も大丈夫だよ？　あとそれに加えて普段の格好では古明地さとりの《心を読む程度の能力》ペルソナ3での打撃、斬撃技全種、ムドブースタ、ムド系全種、マハブースタ、マハ系全種、万能系全種を付け加えまーす♪まぁ、ニュクス・アバターになったらまた戻るまで使えなくなるけど。』

・・・なんかもうそれだけで十分チートなんですが、願い叶える必要ある？

『一応ね一応。それに君がどんな願いを言うのか気になるし。』

・・・一応なのか。ＯＫ。じゃあ言うよ？

『ドンと来なさい！』

1．十六夜咲夜・魂魄妖夢の二人？を従者に。
2．真女神転生デビルチルドレンから、ウルド・ヴェルザンディ・スクルドを仲魔に。
3．妹として古明地こいしを連れていきたい。
4．姉として西行寺幽々子を（ｒｙ
5．咲夜、妖夢、こいしは俺と寿命が一連托生。
6．三天使は普段俺の精神の中で、必要な時呼べる
7．音使いの技能を、零崎曲識さんの何十倍の才能に。
8．ペルソナ３基準で学力・魅力・勇気をＭＡＸに。
9．世界から世界へ渡る時、任意の物や者を一緒に渡らせる事が出来る。
10．住処は《タルタロス》に。勿論世界を渡る時は一緒に。

『・・・』

え？どうした？

『・・・突っ込ませてもらっていいかな？』

え？何が？

『・・・タルタロスが住処ってどうゆうこと？　普通に家立てちゃダメなの？』

えーっとねぇ。とりあえずなんだけど、タルタロス頂上。ニュクス

との決戦の場に家を建てる。
タルタロスは俺達はいつでもいけるけど、それ以外は俺が許した奴、またはタルタロスにいけるほどの実力のある奴しかいけず、またその実力のある奴しか見えない。

『・・・シャドウとかは？』

健在で♪

『・・・建てる時の場所取りは？』

それも考えてある。まぁ、建てる場所に建物があった場合、それを取り込むってのは？なくなったらまた元に戻る。取り込まれた建物に人とかがいた場合は全員タルタロス入口前に吐き出されると言う事で。

『・・・面白そうだから賛成！　というかタルタロスを住処にって今までの転生者で誰もいなかったんじゃない？』

ですよねー。面白い事するならそれくらいしてみようかなーと。

『うん、うん。そうだね！　じゃあそれに加えて・・・』

え゛！？

『悪いようにはしないから。うん、仲魔と従者二人、妹はシャドウに襲われないようにしなくちゃねー。』

あ、そうだった・・・すいません、恩にきますほんと。

『いいよいいよ。これほど面白いのってあったっけ？って思うほどの願いだから。』

というか今更思ったんだが・・・

『ん？』

・・・ほんとに出来るの？　タルタロスだって設定無視して創らなくちゃいけないし・・・

『・・・私を誰だと思ってるんだい？』

転生させてくれる人？

『・・・ふふふ、まぁ、それでもいいかもね。じゃ、そろそろお別れだね』

お、じゃあ本当に・・・って体が光に！？お約束の落とし穴じゃないの！？

『そっちの方がよかった？』

丁重にお断りさせていただきます。って体がもう消えｒ

・・・

・・・

・・・

とある空間

「なぁなぁ、早く転生できねぇのかよ！」

『はいはいうるさいねー。』

あの転生者が行ってから数時間がたった。転生出来る人っていうのは案外多いもので、1日で2～4人はざらにいる。それに加えて私以外にも、いろんな神様や邪神、ときたま別の存在もいるけど、そ

ういう奴らがいろんな人を転生させていく。

「よっしゃあああ！これで俺だけの夢のハーレムが・・・！」

『（つまんない、いつものテンプレハーレム主義者か）』

最近はこういう奴らばっか。あの転生者との話題にも出した気がするけど本当に多い。大方リリカル７なのはの世界でハーレムでも作ろうと思ってるんだろう。・・・ここは最も転生者が多くいる場所に転生させるべきかな！？ふふふ・・・それもそれで面白そうだねぇ・・・

「なぁなぁ！まだかよ！待ちくたびれたぜ！」

『決めてからまだ１０分だよ！？　我慢の限界早すぎない！？　まぁ、いいや。ではいってどーぞー。』

「よっしゃあああ！って落とし穴！？　ぎゃあああああああ！」

・・・そうだ！　あのタルタロスに転生者＋原作キャラを組ませて挑ませるってのはどうかな！？

・・・だとすると・・・よし、知り合いにも連絡して・・・チート分はあえて少なめで・・・

『こりゃ面白くなってきたぞ！　よし、今から転生者５人くらいはあの転生者のとこに送ろう！』

ふふふ、頑張ってね、第１９８４７６８番の転生者君改め、

《古明地ろうど》君♪

あ、どんな世界に送ったんだっけ。まぁいっか♪

ぷろろーぐ？（後書き）

・・・よかったらご感想、ご指摘など、お待ちにしております。

1　目覚めと出会いと説明（前書き）

次話でけた！

・・・楽しんでくれたらいいなーと思います。

1　目覚めと出会いと説明

またまた夢の中である。二回連続明晰夢ってどうゆうことだい。
今度は前の夢よりもっと前の時、妹が生まれた日の夢。

母親が嬉しそうに生まれたばかりの妹を撫でている
父親がそれを微笑ましそうに見ている。
懐かしい、本当に懐かしい。この頃は親二人の喧嘩もなく、結構幸せだった気がする。

母親、父親が妹を一通り愛でたあと、今度は此方を向く。

その時だった。

突然、場の風景が急に緑がかったものになり、周りにあった機械がストップしていく。
心無しかカーテンで覆われた窓から不気味な月が見える。

「「〇〇」」

父親母親が俺を呼んでいる

「「〇〇」」

目や口が黒くなり、ニタニタ笑っている。

「おぎゃあおぎゃあおぎゃあ」

妹もソレを察知したかのように突然泣き声を上げる
その間にも二人はどんどん黒ずんで行き、異形のバケモノに・・・

「うわあああああぁぁあああぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！」

やばい怖い何アレどんな夢だよ妹に刺される夢に続いてなんであんな夢なんだよ怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖いｋ

「どうしましたかろうど様！」

もうほんとにやめてよどうしてあの場で影時間なのさしかも０時なってないじゃん夜じゃないじゃんなんで月が見えるのさそもそも夢の二人どんだけだよバケモノ化ってどうゆうことだよ本当ｎ

「ろうど様！　ろうど様！？　私がわかりますか！？」

「マジやめてよ本当に怖いったらありゃしな・・・ん？」

心無しかかなり近くで声がかかった気がしたのでとりあえず深呼吸する。

すー・・・はー・・・

深呼吸終わり。よし、落ち着いたところでここは・・・

「ろうど様。もう一度言いますよ、私がわかりますか？」

「え？　あ、ああ、わかるけど。」

返事してから声のする方へ向く。

「・・・」

「・・・」

目と目が合う～♪　瞬間好きだと気付いた～♪　ってふざけてる場合じゃないですね！

そこにいたのは、銀髪にカチューシャを付け、メイド服を着た女性が一人。

・・・心の中ではかなり吃驚しながらも、俺はその名前を呼ぶ

「・・・十六夜、咲夜？」

「はい、そうですが。」

本物なのかー。ってえええええええええ！？

正直あの声の主の言ってたこと半信半疑だったんですけど・・・

――――ひどい！？

なんか聞こえたけど無視。とりあえず聞いてみたいことがあるので一つ聞いてみる

「・・・十六夜咲夜。」

「なんでしょうか。」

「君の忠誠は誰が為に？」

「古明地ろうど様ただお一人にございます。」

すっぱり言ったよこの人。それと古明地ろうどって俺のことかな？

まぁそこら辺の疑問は置いといて、とりあえずもう一つ聞く。

「十六夜咲夜。」

「なんでしょうか。」

「・・・ここ、何処か教えてもらえる・・・？」

「分かりました。」

・・・

・・・

・・・

とりあえず、「朝餉のお時間なので大食堂へ案内いたします。」と言われたので、素直について行ってる。説明はその後みたい。ついて行きながら此処・・・たぶん、俺がこれから住むと思われる家を確認。

緑。

そう、緑色だ。殆どといっていいほど何から何まで緑色。正直気持ち悪い。そして今歩いている場所は廊下のようだけど果てしなく広い。

所どころに使用人らしきものもいる。メイド妖精と格好が変わらなかったが、これまたなんとも奇妙な形の仮面が顔についているので、妖精じゃなくてシャドウだと思う。

・・・所々サボってるような節があるのは元が妖精みたいな感じだからだろうか？

シャドウは関係ないけど、俺が住んでいる家・・・いや、この場合はたぶん館。その館は咲夜つながりで紅魔館なんだろうか？いや、色が赤じゃなくて緑なので、緑魔館と言うべきかな？外からみた緑色の紅魔館を想像してみると更に気持ち悪くなってくる。普通の一軒家がよかったんだけどなぁ・・・。

―――それじゃあ面白くないじゃないか！

また何か聞こえたけど無視。無視に限る。本当にどうにかならない

かなぁ。
まぁでもいいか、とこれ以上考えないことにして、もう一度咲夜のほうへ向く。
あ、少し離れちゃった、少し急がないと。

・・・

・・・

・・・

緑色の気持ち悪さに耐えながらやっとの事で大食堂の入口に着いた。
気づいたのだが壁にまるでペンキが上から流れてきたようについてる赤色や床の所どころに赤い血だまりみたいな部分があったりした。
・・・もしかしてこの中だけ影時間とか？とりあえず咲夜はこの緑色廊下気持ち悪くないのだろうか。

入口の扉をいざ開こうとしたところで

「すいません、私はこれからタルタロスの管理をしなければいけませんので、ひとまずここでお別れです。」

そう咲夜が言ってきた。

「タルタロスの管理？」

と聞くと、そこも説明に含まれるそうなので、幽々子様に聞いてくださいとのこと。申し訳なさそうにしていたので、

「その分管理で頑張ってくれ」

と言っておいた。フォローになっているかどうかも分からないけど咲夜が能力を使って目的地まで行く瞬間、少し元気になっている気がした（悪魔でも気がしただけ）ので大丈夫だと思う。

扉を開けると、なんか結構縦に長いテーブルに二人ほどちょこんと座っているのが見える。

たぶん、格好からして妹である古明地こいしと、姉である西行寺幽々子・・・今は古明地幽々子かな？その二人だと思う。というかこいしが手を振ってる。俺も手をあげて挨拶した後、自分の席だと思われる場所に向かい、座る。

「おはよう、ろうど。」

「おはようお兄ちゃん！」

「お、お早うございます。」

挨拶してきたので俺も挨拶を返す。少し吃ってしまったが仕方ない。

画面越しにずっと見てたキャラ達が

目の前にいるんだ。それくらいは許容範囲だと思う。

・・・え？咲夜さんの時？

・・・気にしないでください。

吃ったのを少し不思議に思ったのか、幽々子が少し間を置いてから

「ああ、そういえば意識がある状態でろうどは私達と会うのは初めてだったわね。」

と言ってきた。

初めて意識がある状態？

「お兄ちゃん1ヶ月くらい眠ったままだったもんねー。」

一ヶ月も眠ってた？　え？　え？

「とりあえず、先にご飯を食べてから話しましょう。」

「あ、は、はい。わかりました。」

「それと知ってるでしょうけど、私の名前は，古明地，幽々子。これからよろしくお願いするわ♪」

「私は古明地こいしだよ！よろしく！」

「あ、どうも・・・」

そんなこんなで結構賑やかな朝食の時間が過ぎていく・・・

・・・

・・・

・・・

「じゃ、これから説明するわね。」

「了解ですお姉ちゃん。」

所変わってここは俺が最初に目覚めた場所。どうやらここが俺の部屋らしい。
まだ何も弄ってないので、ベッドに、俺に必要性があるのかどうかわからない服がしまってある箪笥。
何処か高価そうな壷だけが置かれている。

「その前に敬語をやめないかしら？兄妹でしょ？」

説明はここでするらしい。ちなみにこいしの姿が見えないのはシャドウと遊びにいったらしいです。そもそもどうやって遊ぶんだろうか物凄い気になる。もしかしてここに挑んできた奴を一緒に襲うとか・・・

「ねぇ、聞いてるかしら？」

「あ、すいません、聞いてませんでした。」

「・・・じゃあこれからちゃんと聞いて。あと敬語は無しよ。」

「了解だ姉御」

「えっと、まずは・・・」

「（あれ！？突っ込まれない！？）」

少女説明中・・・

とりあえず分かったことを話す。

まず、朝食の時にこいしが言ってた通り、俺は1ヶ月ほど眠ってたらしい。普通はそんな事はないのだが、どうやら俺がもらった力が力なので、どうにも安静にする期間というものが必要だったからだとか。その間幽々子とこいしと咲夜で交代で世話してたみたいです。本当に家族と従者さまさまです。ありがとう御座いました。

次にタルタロスについて。

ここは声の主さんが俺の足りない説明に色々と付け加えてくれたみ

たい。そういえばシャドウとかそこら辺の設定をきめてなかったと幽々子からの説明の途中で自分で気付いた。声の主さんも有難う御座います。

で、肝心の設定は、

・あの空間で要求したことは反映されていて、普通の人には見えなく、タルタロスがある前の景色に見える。だがタルタロスのある場所から中に進もうすると気付かない間にまたタルタロスのある場所から離れていく。
・自分が許した者、ある程度実力のある者、特定の者はタルタロスが見え、尚且つ入れる。
・階は原作と同じで２６２階。
・タルタロス内部以外でも、シャドウは活動可能。一部の階下から外へとでれるのでそこから勝手に出ていく。
・シャドウは自由に生み出せる。だが一部のシャドウには難しい命令は出来ない。
（例えばあっちに行け、こっちに行けくらいはできるが、襲う人までの特定や複雑な移動となると、原作での満月の日に出てきたボスシャドウくらいのを創らないといけない。）
・自分達は襲われない。

こんな感じである。
これを聞いてから思ったのだが、俺ってどっちかっていうと悪役の方じゃないか？これじゃあまるで俺ってラスボスみたいな・・・あ、貰った力、ラスボスでした。

とゆうことは世界毎にここを攻略する奴が現れるわけで・・・俺はその最終目標で・・・

・・・タルタロスもらったの間違えたかな。でも敵役ってのもそれはそれで面白そうなので不満はあまりない。というかどこかゲーム感覚な自分がいるけどどこもおかしい部分はないっ！

最後に俺について。

俺の名前は『古明地ろうど』で、古明地さとりの姿になっている。棺桶や仮面が無く、それに服装も古明地さとりそのままだったのでどうしたのかと思ったけど、どうやら説明を聞いた後に改めて変わるらしい。まぁそりゃ最初から付いてたら一ヶ月も眠れてなかっただろうしね。主に体勢の問題で。

ニュクス・アバターへの変身も問題ない。説明の途中で試した。大きさとか自身の姿とかを見て、これが現実でのニュクス・アバターなのか・・・って思ったよ。・・・大きすぎて天井を突き抜けてしまったのは余談だが。アルカナシフトもちゃんとゲームみたいに目の前にカードが現れるからちょっと面白かった。

で、その他諸々で、妖精メイドみたいなシャドウや俺が居る館などの説明も終わったところで。

「・・・そろそろかしら？」

ん？

「何が？」

「その格好が変わる時よ。もう殆ど説明し終わったからそろそろだと思うのよ。」

ほうほう・・・そりゃ楽しみだ。それになんだか体が熱くなってk・・・！？

「ぐぁぁあああああ！？」

ちょ、か、体、が焼けるよ、うにいた、

「あ、始まったみたいね。」

ちょ、だま、て、みて、ないで、これ

「大丈夫よ、すぐ終わるから。」

すぐ、おわ、る、て！？

「ああああ■■ああ■■あ■■■■■■■■！」

途中からまるで獣が叫ぶかのように俺は悲鳴をあげ、倒れたのだった。

1　目覚めと出会いと説明（後書き）

ご指摘、ご感想お待ちしております。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3230ba/

ニュクスでさとりでタナトスでタルタロスで

2012年1月9日02時50分発行